

## ヒアリング結果の要点

## ○ヒアリング実施状況

## 歴史的背景及び整備・管理状況等に関するヒアリング

分野	対象者	所属
歴史	原 武史	放送大学教授
緑地・生態系	亀山 章	(公財) 日本自然保護協会理事長
国民公園史	<u>井原 縁</u>	<u>奈良県立大学教授</u>
都市公園	下村 彰男	東京大学教授

## 利用状況、変化状況及び利用者ニーズの把握に関するヒアリング

分野	対象
観光等	(株)はとバス
	(公財) 日本交通公社 (JTBF)
	(株)やまところ
	<u>(一財) カルチャー・ヴィジョン・ジャパン (CVJ)</u>
	<u>(一社) 大手町・丸の内・有楽町地区町づくり協議会</u>
行政	<u>東京都建設局公園緑地部計画課</u>
皇居外苑の 運営管理	<u>(一財) 国民公園協会</u>

(第2回懇談会時点から要点を追記した対象者とその内容をアンダーラインで表示)

## ○歴史的背景及び整備・管理状況等に関するヒアリング 要点

## 【皇居前広場の利用の歴史的経緯について】

(原氏)

- ・大正 13 (1924) 年～昭和 20 (1945) 年 (天皇制の儀礼空間としての利用が活発に行われた時期) の広場の使われ方 (儀礼の場としてのなにも置かない空間、繰り返し行われた親閲式等) が、「天皇のための空間」「聖地」としての位置づけを確立し、神聖な雰囲気が出来上がった。
- ・戦後、「5・30 人民決起大会」での占領軍と政党・労働組合との衝突を機に、宮城前広場での政党・労働組合による集会活動が規制されていき、「血のメーデー」の記憶も伴って、容易には使えない雰囲気、神聖な空間という意識が高まったといえる。

## 【皇居外苑の利用の在り方について】

(原氏)

- ・ワールドカップ、スポーツ観戦のパブリックビューイングの場など、不特定多数の人たちが集まり熱狂する可能性があるような使い方ではないやり方から認める方向で考えるのがよいのではないか。
- ・内堀通りを境に皇居側と東京駅側とで少し広場のイメージや使い方が異なるかもしれないが、去年の式典<sup>1</sup>では、内堀通りより皇居側に入れなかった人たちが東京駅側の広場にも大勢いて、内堀通りの中・外とで違いはあまりなかったのではないか。大きなイベント時には内堀通りを止め、一体的に使うようなことができればよいのではないか。

(下村氏)

- ・利活用の門戸が開かれることは、企業にとってはビジネスチャンスともなるため、実施できる利用形態については、公的機関の主催・共催に限る、金銭の授受を禁じる、週末利用を禁止する等、ハードルを高く設定し、上手にルールづくりをする必要がある。
- ・日比谷公園でイベント等をやることがステータス、ブランディングになっている。皇居外苑では、更にその意味合いが強くなるのではないか。

(井原氏)

- ・皇居外苑は日本の歴史文化を象徴する特殊な由緒ある場所であり、その来歴が、独特の風致景観をはじめ、あの場所ならではの「固有性」を生み出している。ゆえに、

<sup>1</sup> 天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典 (令和元 (2019) 年 11 月 9)

その時々の時代・社会の要求に応じて都度新たな機能を設定し、それに基づく空間計画・整備を繰り返していく短い時間スケールの一般的な手法では、その「固有性」を壊してしまう危険が非常に高く、より大きなスケールの時間認識のもと、当該空間にこれまで積み重ねられてきた従来の機能を引き出す方向での丁寧かつ慎重な検討の視座が必要だと考える。

- ・ 上記の視座に立ち、当該空間に展開してきた「利用」の積層、かつ現在の利用状況も照らして考えると、今後特に「利用」に際して重点的に検討していくべきことが3点挙げられる。

1) 近代より一貫して継続している重要な機能であるにもかかわらず、その内容が場の潜在力に比すると乏しい「観光の場としての利用」の機能強化

→ 皇居の外苑（周辺地域）であると同時に旧江戸城の外周部であるという当該空間の来歴のうち、特に後者の資源活用・情報発信は未だ十分とはいえ、また他の利用形態と互いに阻害せず共存し得る効果的な動線計画や、特有の景観と調和した体系的なサイン計画も検討する必要があるのではないか。

2) 関東大震災時に東京市民 30 万人の避難場所となり、かつ現在も千代田区災害時避難場所として指定されている「防災空間」としての機能強化

→ 災害時において帰宅困難者らが連絡や情報収集等を円滑に行えるよう、Wi-Fi環境を整備する等、一部取り組みが進んでいるが、防災空間としての機能およびその発信に対する取り組みは現状決して十分とはいえ、今後強化する必要があると指摘できる。

3) 「国民公園」化と共にもたらされ継承されてきた「民衆の憩いの場としての利用」の適正な機能促進

→ 利用者の増加や賑わいが、必ずしも当該空間が目指すべき理想像とイコールではないことは、この場所の来歴が証明している。この場の固有性を体現する景観の保持と折り合いのつく、まさに「適正」な利用を誘導・定着していくための戦略が必要。北の丸地区と皇居前広場、和田倉噴水公園、さらに皇居前広場の中枢部と外周部といった場所ごとに、適した利用の在り方や環境容量は異なるが、現状ではあまりメリハリが見られず茫漠としている印象が強く、そのまま一様に利用促進を目指すのは危険ではないか。

#### 【日比谷公園との連携について】

(下村氏)

- ・ 日比谷公園を開いていきたいという考えがあり、周辺のみどりとのつなぎ方は、視覚的なつなぎ方、機能的なつなぎ方があると考えている。
- ・ 日比谷公園の内部が外（街）から見えるように樹木を整理する方向で検討。テニス

- コートを再整備し、皇居外苑側とつながりやすいようにできないか検討中。
- ・皇居外苑と日比谷公園を行き来して利用する人は、現状ほとんどないのでは。皇居外苑との間にはお濠があり、アクセス性は悪いが、日比谷公園側の樹木を整理して、双方からお互いの利用者が見えるようになれば回遊性が高まるのではないか。
  - ・日比谷公園は身近なスポーツの振興に寄与してきた歴史のある公園であり、スポーツ・健康拠点を作り、ランニングする人の流れで皇居外苑や皇居とつなぐというアイデアがある。
  - ・サインの統一や広域的な公園の機能分担など、セントラルパーク構想が土台になれば考えていける。その構想の下で協議会が機能し、日比谷公園と皇居外苑等の利用についても判断させることもできるかもしれない。そこでは国と都との連携をどのように実現するかが課題になるだろう。

#### 【現在の利用実態について】

(亀山氏)

- ・利用実態に関する調査をきちんと行い、利用実態を把握した上で利用の在り方を考えるべき。

(下村氏)

- ・日比谷公園の利用について問い合わせがあったものでは、大使館のフェア、物産展、オクトーバーフェスタ、宗教団体のイベント等様々なものがある。利用のニーズについては、日比谷公園や上野公園に問い合わせのあった利用について情報提供を受けても良いのではないか。

#### 【中央公園としてとらえる視点について】

(亀山氏)

- ・広域的な視点でとらえ、都市計画東京中央公園という、皇居を取り巻く大きな公園が国民にとって大事な場所である、という意識が重要。都市計画上は「都市計画中央公園」であり、皇居外苑はその一角をなしている場所である、「中央公園」というまとまりある緑地の中にある一つの空間としてとらえるのがよい。

#### 【皇居外苑の生態的な位置づけについて】

(亀山氏)

- ・東京の都心で一番自然豊かな場所が皇居である。絶滅危惧種も多くいる自然の宝庫である。皇居外苑を含む「中央公園」はその周りがある、皇居を取り囲むバッファーであり、皇居からの生きもののにじみだしを受け止める場となる。

#### 【サイン表示について】

(亀山氏)

- ・周辺は発信できる・見どころとなる資源がたくさんある歴史の宝庫である。皇居外苑だけで考えるのではなく、周辺地域も含めて一体的に情報発信するサインが必要。

#### 【情報発信拠点について】

(亀山氏)

- ・東京駅付近や、行幸通りを通過して皇居へ向かう表玄関となる皇居外苑に、東京セントラルパーク全体や歴史的遺構・資産を来訪者に紹介できる、楽しんでもらえるインフォメーションセンターがあるとよい。

#### 【文化的、歴史的景観について】

(亀山氏)

- ・皇居外苑の景観上の特徴は、松と芝生である。原 熙（はら ひろし）東大名誉教授 農学博士の意見で戦前の皇居御造営の仕上げとして造られ維持されてきた景観である。日本人にとって非常に大事な原風景にもなる歴史的景観である。そのことをしっかり意識して、あの風景を壊さないことを考えるべき。

#### 【内堀通りについて】

(亀山氏)

- ・凱旋道路（現内堀通り）は歴史的にみると、そもそもは大勢の人が安全に出入りできるように考えてできた通りである。現在それが空間の広がりをつ断し、皇居外苑の利用を妨げている一番の要因になっていることをきちんと意識し、どうしたらよいかを考えるべきである。道路をなくす（地下化する）、掘り下げて半地下にして車が見えないようにする、その上に橋をかける、などやり方はいろいろ考えられる。

#### 【長期的視点での検討】

(亀山氏)

- ・皇居外苑という大事な場所で物事を考えるには、基礎的な調査を行い、実態をきちんと把握する時間をとり、時間をかけて長期的に検討することが大事である。

## ○利用状況、変化状況及び利用者ニーズを把握するために行うヒアリング 要点

## 【皇居外苑の観光利用の状況】

((株) はとバス)

- ・ 毎日 10 台弱のバスが皇居外苑に行っている。乗客数は 20～30 名／台程度。
- ・ 地方からの来訪者が 6～7 割、シニア層が中心である。
- ・ コースの最初に皇居を訪れるパターンが多い。皇居→東京タワー→浅草、皇居→浅草→スカイツリーが主要コース。
- ・ 季節は、11 月の秋の行楽シーズン、3～4 月のお花のシーズン、お正月一般参賀の時が多い。
- ・ 楠公駐車場からは、二重橋前まで案内して戻るコースになる。また、坂下門前でバスを降りていただいて（バスは楠公駐車場へ回送）、二重橋前を經由して楠公駐車場までガイドして歩くコースも設けている。
- ・ 皇居をめぐるツアーの近年の利用者数は以下のとおり。

皇居を組み込んだコースの参加人員

2017年1月～12月 69,000名

2018年1月～12月 59,000名

2019年1月～12月 70,000名

((公財) 日本交通公社)

- ・ 東京都で主要な観光地等に地点を決めて入れ込み客数を毎年モニタリングしている情報があるのであためるとよい。
- ・ 毎日午前と午後に 1 回ずつ実施している一般参観（ガイドツアー）の参観者数は宮内庁から公開されているものがある。近年は外国人の増加により全体人数が増加している。

## 【利用上の課題について】

((株) はとバス)

- ・ 東御苑散策の際には駐車場所に困っている（どこからも遠い）。和田倉も駐車場から遠いのがネックである。
- ・ 範囲が広いため、周遊バスなど苑内を容易に移動できる手段があると、時間的制約の中でも苑内全体を楽しんでいただけるようになってよい。
- ・ 楠公像周辺などに、屋根もあって休憩できる場所が少ない。夏場など高齢者にはつらい。
- ・ 北の丸の駐車場は、土日はイベントでふさがれることもあり、観光業としては利用しにくい。イベント開催時にも、一定の台数を止められるような仕組みになると使

いやすくなる。

### 【利用者ニーズについて】

((株) はとバス)

- ・日本観光に慣れた外国人は日本人向けのツアーコースを希望する方が多い。
- ・夜の時間帯のツアーは皇居外苑地区では今のところない。皇居外苑ライトアップも魅力はあるが、それだけでなく、レストランでの食事や、“知られざる皇居外苑の歴史”というようなプログラムとセットで考えられるとよい。
- ・皇居の中が見たいという期待が少なからずある。皇居の中の様子がヴァーチャルで見えてとれるような仕掛けがあると満足度を上げられる。
- ・広場の雰囲気は喜ばれている。東京駅前、都心の真ん中にあのような空間が広がっていることを驚いている外国人観光客が多い。和風の景観の背後に高層ビルが見えるというところに日本らしさを感じている外国人が多い。
- ・歴史専門の講談師や大学の先生など招いての歴史案内ツアーは需要が多い。

((公財) 日本交通公社)

- ・大きなイベントとしては、音楽的なものがあると面白い。

((株) やまごころ)

- ・皇居やあの地域で知ることのできる「歴史」を求めて足を運ぶ人、「自然」や「リラックス」を求めて足を運ぶ人、それぞれがいる。
- ・観光客目線でみると、都心にあってあれだけの規模の緑地、日本らしさを味わえる空間は、歴史だけではなく、自然や憩い、落ち着いた時間をゆっくり過ごすような利用を目当てに訪れる外国人観光客が多いと思われる。まずはゆっくり過ごし楽しんでもらい、そのあとで歴史を伝えられればよい。
- ・ナイトタイムエコノミーという言葉があるように、海外では夜も観光やくつろぎの時間として需要が大きいため、皇居周辺でも、インバウンドへの対応として夜も楽しめることがもっと多くあるとよい。
- ・現在は観光バスで訪れて集団で歩いて観光するまでにとどまっているが、もっと少人数のグループや個人を対象として、皇居外苑を含め皇居周辺をめぐるガイドツアーがあると良い。海外ではよく、そのようなガイドツアーが充実している。

((一財) カルチャー・ヴィジョン・ジャパン)

- ・デザインは、アートその他の文化芸術の世界と科学技術を繋ぐ重要な概念であり、日本の産業界において、建築、各種デザインは、日本の世界レベルを超える最高のコンテンツだといわれている。北の丸地区にある国立近代美術館の大幅な機能拡張が、美術業界のみならず、観光業界からも強く望まれている。

- ・近代美術館工芸館の移転、今後の国立公文書館の移転、科学技術館の改装時期を踏まえ、また、可能性がある場合は第一機動隊の移転などを考慮して、近代美術館の拡張整備及び国立デザインセンターの新設などにより、北の丸地区を日本の文化芸術・科学技術の発信の場として整備することを考慮すべきだと考える。

### 【利用の在り方について】

#### ((公財) 日本交通公社)

- ・レクリエーション利用（心身リフレッシュ）と、観光利用（知的好奇心充足）とは分けて考えるべき。皇居外苑やその周辺は双方の適地であり、いずれも皇居ならではの利用者意識や空間特性によって、高い誘客力をもっている。例えば東御苑のガイドツアーは6か国語で実施し、季節ごとの追加的情報などもあり充実している。一方、皇居外苑は、簡易なレクリエーション利用やジョギングなどの適地である。
- ・東御苑から皇居外苑にかけては、皇居の中核的なところから都市の世俗的なところへのバッファードとして、国民が楽しめる空間がうまく配置されていると感じる。
- ・外国人観光客に対しては、レクリエーションよりも、限られた時間の中で観光として日本の中核的なものを見て回ってもらうことが主体となるであろう。
- ・周辺からみて皇居外苑がどうなのかというよりも、皇居の中に対して皇居外苑がどうあるべきか、何ができるのか、という見方が重要と思われる。
- ・皇居や東御苑の中ではできないようなこと、提供できないサービス、訪れた記念になるようなことを提供していくのが皇居外苑の役割になるのではないか。

#### ((株)やまどころ)

- ・皇居は国内でも唯一無二の存在であり、海外からみても観光資源としての価値は非常に高い。
- ・「天皇」は海外では珍しい存在である。また、皇居その場所に実際に住んでいるという点が、海外からみると非常に大きな特徴であり、インバウンドにおける皇居の求心力はとても強い。
- ・イベント的な新しい利用の在り方を考えるのもよいが、インバウンドに関しては日常利用、一般の観光利用の在り方が重要である。団体観光客ではなく、少人数・個人の方のニーズに向けて、ガイドやサインの充実、セルフガイドの工夫などを考えることが大切。

#### ((一財) カルチャー・ヴィジョン・ジャパン)

- ・皇居前広場は、そのシンボル性からも、従来は天皇陛下ご即位をお祝いする国民祭典を始め、国家的行事の主要な開催場所として利用されてきた。皇居前広場は、その性格から今後も国家的行事の開催に限定して活用することが考えられる。



・馬場先は、日常的な利用における丸の内エリア、有楽町エリアとの一体性、周遊性の確保とともに、馬場先東側の舗装された場所の利用方法の創出が必要。馬場先東側に、屋外イベントに利用可能な舞台装置を設置することが可能となると、様々な用途への利用が考えられる。これにより、併せて楠公像周辺のバス駐車場のより一層の有効活用も可能となる。

((一社) 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会)

- ・内堀通りの西側はこれまで通りの国家的行事に限り、東側はより一般的な行事を認める等、メリハリを持った使い方や多面的な利用ができるとよい。馬場先は、長方形（アスファルト部）でイベントを実施する上では大変使いやすく、日本、世界の人々の心に強く刻まれるようなイベント実施のポテンシャルが高い。
- ・皇居外苑の発信力や上質性は皇居外苑にしかないもので、大きなポテンシャルを感じている。皇居外苑を使えること自体に特別感があり、ステータスとなる。皇居外苑は、特に日本の良さ、東京の良さを国内外に発信できる場所、魅力を実感させることのできる場所である。
- ・イベントの期間は年間を通してみると短い期間である。それ以外の期間は、より行きやすい場所、公園としての機能充実が必要ではないか。現状が良いと感じる人もいるかもしれないが、そうした少数意見も含め、広く意見を聞いていくべきではないか。
- ・協議会では、公共団体だけではなく、いろいろな方が利用し発信していくことを重要視している。誰がではなくどのような利用かを見て許容していくことを大切にしている。
- ・皇居外苑についても、地域や関係者を入れた審査会等を設置し、催しの内容で審査していくことが大切ではないか。

((一財) 国民公園協会)

- ・楠公レストハウスの新たな取組として、地方の農水産物及びその加工品の生産者と連携を図り、環境保全からの観点から、マルシェのようなことをできないか検討している。
- ・北の丸地区では、科学技術館と連携して、環境と科学をテーマに、皇居外苑の自然と歴史を映像資料などを使って知っていただくイベントを検討している。
- ・利用者の増加、利用者層の拡大につながる、より開いた利用、にぎやかな場所になるようなことができるとよい。

**【情報発信について】**

((株) はとバス)

- ・歴史的背景はバスガイドが解説案内している。現地にあるパンフレット等は、お客さんはなかなか手に取って試みるのが少ない。案内板などが必要と感じている。
- ・外国人向けの案内の充実が必要。博物館にあるようなセルフガイド機器などがあると良い。
- ・歴史的な名所の案内板の整備のほか、団体バスは東御苑前で降りて楠公駐車場に回送しなさいというような誘導案内の整備だけでも、皇居観光をよりスムーズに行いやすくなるので、そのような整備があると有難い。
- ・バスガイド用のテキストに自然に関する案内はほとんど入れられていない。そのような情報を提供いただくとガイドに活用できる。花の写真を撮るツアーなどは実施したことがあるため、そのようなツアーで、季節的なみどころ紹介の情報としても活用できる。
- ・皇居外苑として推すのは難しいと思われるが、パワースポットめぐりもツアーになる。二重橋前の写真が運気を上げるという情報が広まっている。

#### ((公財) 日本交通公社)

- ・ジョギングなどスポーツ利用しようとする、道具や施設の備えが必要になる。皇居周辺にはジョギングステーション（サービス施設）がいくつもある。一般利用者にもそのような周辺のサービス施設などがわかるインフォメーションがあるとよい。
- ・有償ガイドやボランティアを場所内容に応じて配置して、来訪者へのインフォメーションを充実させられるとよい。

#### ((株) やまどころ)

- ・タブレット端末で昔の様子を写真で見せながら昔と今を比べる、みどころをガイドするなど、日本の歴史をあまりよく知らない外国の観光客に向けて、歴史情報の発信・伝え方を工夫するのがよい。

#### ((一財) 国民公園協会)

- ・利用普及の一環で自然や歴史のデジタルガイドツール皇居・皇居外苑散策アプリの運用を開始した。

#### 【広域的な利用・連携について】

##### ((公財) 日本交通公社)

- ・外国人向けの旅行ガイドブックには、皇居を巡るツアーの情報が掲載されている。日本のガイドブックには二重橋前の紹介以外ほとんど情報がない。皇居周辺の情報がいくつかあるにはあるが、集約されておらず、散逸している。
- ・観光利用で誘客圏を広く見ていき、東京駅の駅舎など周辺にある集客力の高い観光

対象も含めて情報発信していけるとよい。二重橋前の景色は皇居を代表する誘客力のある観光資源である。

- ・地方から観光や出張で東京に来た人に向けて、東京駅発着で東京駅周辺の歴史的建造物や皇居外苑などを見て歩くようなガイドツアーがあるとよい。
- ・江戸城に因んだ地名、施設名を観光の題材にすることもできる。例えば「丸の内」は昔の江戸城敷地内だったことに由来している。江戸城内外のかつての様子に重ねて今の状況を案内すると、気付かないことに気づけるようになり、来訪者の興味を引き出せる情報がいろいろある。それがガイドツアーの醍醐味である。

#### ((一財) カルチャー・ヴィジョン・ジャパン)

- ・和田倉から坂下門・桔梗門にかけては、皇居東御苑と連動する徒歩動線として整備することにより、より周遊性を確保することが可能だと考えられる。皇居東御苑の三の丸尚蔵館は、大規模な新築工事が行われ、展示施設が充実する可能性が高く、皇居東御苑に対する徒歩動線の充実が必要だと考えられる。
- ・丸の内・有楽町エリアは、アートを中心として街自体の活性化を計画している。このようなエリアと連動し、国内、海外からの丸の内・有楽町エリアへの訪問者を馬場先に回遊させることにより、都市空間を訪問した後、自然空間を散策するという貴重な体験を行うことができる。更に、馬場先にパブリック・アートを設置することが可能となれば、丸の内・有楽町エリアのアートを中心とした街の再開発とも連動して、丸の内・有楽町エリアとの一体性と周遊性を確保できる可能性がある。
- ・丸の内・有楽町エリアには、無料の周遊バスが走っている。皇居外苑地区内を周遊するバスが走ることにより、現在の徒歩による移動を超える利用が可能となり、また、東京駅などの最寄りの駅を周遊することにより、徒歩移動が難しい人たちを含め沢山の方々の皇居外苑地区の利用が促進されると考えられる。

#### ((一社) 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会)

- ・大丸有地区では、単なる観光(sight seeing)だけでなく、創造的な活動をしてもらうことを意識しており、特に MICE では、東京国際フォーラムや東京商工会議所等が近接するため、外苑と一体となった使い方や連携ができれば、効果は大きいと考えている。
- ・皇居外苑へは大型バスによる観光が多く、目的地にだけ立ち寄り、すぐほかの場所に移動してしまう。皇居外苑に来る方・大丸有地区に来る方がお互いに知ることができると、回遊性が上がり相乗効果が期待できる。情報発信の連携、モビリティでの連携ができるとよい。
- ・モビリティの連携は、例えば、大型観光バスは乗降場や駐車場のスペースを広く要するため、民間側で場所を確保するのが難しい現状だが、MICE 等でホテルと会場

をつなぐシャトルバスの降車場、一時待機場所等、皇居外苑の駐車場の一部を開放していただくとありがたい。

- ・周辺地域との回遊性、皇居外苑、日比谷公園、丸の内地区などが意識的につながることで、それぞれの違いは楽しみつつ、周れる仕組みがあるとよい。

(東京都建設局公園緑地部計画課)

- ・日比谷公園におけるイベント等の実績（占用許可）については、真夏や冬を除く気候が良い時期にはほぼ毎週末に実施されており、平成 30 年度には計 54 件である。件数として多いのは、飲食に関するイベント、花やみどり関係、ウォーキング・ランニング、外国の文化交流イベントなど。そのほか、健康・医療、カフェ、地域まつり、防災、自転車等の関連イベントがある。
- ・特定の団体等による集会活動や音楽会などの催しは野外音楽堂の利用希望が中心。
- ・現在検討中の「日比谷公園再生整備計画」において、特に皇居外苑との関係では、日比谷公園と皇居外苑やまちとのつながりをもたせ、周辺の地域との回遊性を高めていく方向で検討を進めている。
- ・皇居外苑を訪れた人からは、隣接して日比谷公園があることが見えにくく、あまり認識されていないこともあり、日比谷公園まで足を運んで一体的に利用するようなことが少ない。同様に日比谷公園から皇居外苑にまで足を運ぶような利用もあまりされていないのが現状。日比谷公園と皇居外苑とを回遊して一体的に利用してもらえるような整備や情報発信が重要。
- ・日比谷公園内の皇居に隣接する場所は、運動や健康づくり等多目的な活動の場としていくことを検討しており、既にランニング利用のある皇居外苑につなげていくような発想もありうる。健康は、これからの公園利用を考えるうえでの一つの大きなテーマになる。
- ・令和 2 年 10 月には、計画課が事務局となり、“東京セントラルパーク”（東京都市計画公園第 1 号中央公園）の関係者からなる「東京セントラルパーク連絡会」を設立した。環境省、宮内庁、千代田区、東京都が一元的な情報発信や一体感の創出に取組み、公園と地域の魅力や価値及び回遊性を向上させることを目的に継続的に協議を進めていく考え。
- ・先ずは、どこに行っても、“セントラルパーク”の一つであるということがわかる情報発信をそれぞれが行っていただけることを目指している。
- ・関係者それぞれが“東京セントラルパーク”として一体的にとらえる意識を持つことと、関係者間での連携・コミュニケーションや情報交換をどれだけ緊密・積極的に行えるかが課題であり、連絡会を進めていくうえでの重要なポイントである。

((一財) 国民公園協会)

- ・国民公園協会主催のガイドサービスとして、皇居外苑の歴史や自然を題材としたガイドツアー、東御苑や日本橋・丸の内・銀座方面など近隣地域も巡るガイドツアー、自然観察会、バードウォッチング会なども行っている。